

技術  
FOCUS 03 (株)サニクリーン食品工場ユニフォームの  
最近のトレンドと正しい保管方法

ユニフォームレンタルやダストコントロール（モップ、マットなどのレンタルサービス）、清掃サービス事業などを展開するサニクリーン。同社で取り扱う食品工場ユニフォームの最近のトレンドや正しい保管方法などについて聞いた。

正しい着用を促す  
ユニフォーム

毛髪\*や体毛などの食品への混入を防ぐ食品工場ユニフォームは主に「毛髪や体毛が着衣の外に落ちることを防ぐ仕様・機能」の進化が続いてきた。袖口や足首、顔周りなどにニット素材で隙間をできにくくする設計や袖・裾回りのインナーカバーの取り付けなどもその代表例と言えるだろう。

しかしながら、こうした仕様・機能は同時に暑苦しさや圧迫感など着心地でのデメリットももたらしてしまう。そこで、次の段階としての通気性の高い生地や冷感素材の採用、ストレッチ性を向上させた生地の採用・立体裁断による仕立てなど、快適性を重視したユニフォームが注目されるようになった。

そして現在はさらに新たな段階に進んでいると、サニクリーンの担当者（以下同）は説明する。

「正しい着用を促すユニフォームが最近のトレンドになっています。具体的には、

インナーカバーそのものを目立つ色にしたり、インナーカバーの端に目立つ色のパイピングテープを縫い付けたりする仕様になっているもので、は



←体毛の落下を防ぐズボンのインナーカバー

→インナーがはみ出していると、黄色いパイピングテープにより目立つ仕様

み出ている場合には周囲から指摘してもらえらというわけです」

毛髪・体毛の混入がなかなか減らない原因の一つとして、キャップを含め、ユニフォームの正しい着用ができていないことも挙げられる。

「正しく着用しましょう」と教育しただけでは、その徹底にばらつきが出る可能性があるが、誤った着方をしているときに周囲から指摘しやすくなる仕組みがあれば、その場で修正することができ、指摘された本人も正しい着用が意識に強く刷り込まれると言える。

ユニフォームの  
正しい保管方法

異物混入を防ぐためのユニフォームも、正しい保管ができていなければ、逆にユニフォームが異物を製造現場内に持ち込んでしまう。サニクリーンでは、望ましい保管方法として主に次の点をアドバイスする。

①着用前と着用済みの保管場所を明確に分けて交差しないようにし、着用前



フロントファスナーが首元まで閉まっていないと黄色い下部部分が見える仕様

のものはできれば衣装ケースなどに入れて毛髪やちりなどが付着する可能性を避ける

②ビニール袋などに入れて保管する場合は、着用前と着用済みで袋の色分けをし、誤って交差させないようにする

③ハンガーにかけて保管する場合は、個別にビニールカバーをかけると帯電しやすくなるため、ハンガーラック全体を覆うカバーを使用することが望ましい

④土足エリアから切り離して保管するこのうち特に注目すべきは④だ。

「土足エリアは前室の前にあるため衛生管理上、見逃されやすいのですが、こうしたエリアでユニフォームを保管していると、外部から持ち込まれたちりやごみなどが付着しやすくなってしまいます。土足で踏み入るエリアにユニフォームが保管されていないか、点検をお勧めします」

## 各種教育支援にも対応

2021年6月1日に完全施行となった、いわゆる「HACCP制度化」を機に、独自の「衛生管理サポートプログラム」の提供を展開している同社。ユニフォームの正しい着用を呼びかける啓発ポスター（多言語対応）の作成をはじめ、各種教育支援などにも対応している。

※ この記事では主に頭髪を指す。